学校番号　11

平成 30 年度　長野県須坂創成高等学校　学校評価表

学校教育目標	重点目標（中・長期的目標）	総合評価
1　産業構造の変化に柔軟に対応し、職業人として必要とされる専門力と創造力を兼ね備えた地域産業の担い手を育成する。 2　生徒一人ひとりが輝く「明るい学園」を創造し、思いやりの心を大切にするひとづくりを通し、社会に貢献できる人材を育成する。	1 総合技術高校としての特色を生かし、農工商の枠を超えたより広い専門性と柔軟な実践力を養成する。 2 地域に根ざした信頼される学校づくりをすすめ、地域社会を担う人材を育成する。 3 自らに誇りを持ち、ルールやマナーを大切にする誠実で品格ある人間を育成する。	４月より完全統合され２１クラス約８２０人が一緒に学校生活を始めた１年でした。学習活動、多くの行事を実施する中、学校全体で生徒、教職員がどう対応していくか課題でした。創成フェア、課題研究発表会は、３学科の生徒が協力でき、お互いを知る機会になりました。おもてなしの心を持って多くの地域の方々と交流ができ有意義でした。ようやく１年間過ごしてみてまだまだ、多くの課題が存在します。どのように生徒を育成していくか何が大切か検討が必要です。１期生の実績が評価され教育内容が地域に認められ、さらに総合技術高校としての特色を生かして、地域の将来を担う生徒の育成を行っていきます。

今年度の重点目標	自己評価	成果と課題、改善策・向上策
①総合技術高校の特色を生かし、学科間連携や課題研究発表、学校行事、クラブ活動等を通して学科を超えた交流と校内の活性化を図る。	A	特に、創成フェア、課題研究発表会を通じてお互いの学習内容や良さ等を見たり聞いたりすることができた。さらに、活性化を図るには交流内容や活動の改善工夫が必要である。
②挨拶の励行を進めるなかで、コミュニケーション力の育成と地域に信頼される学校を目指す。	B	生徒会委員会を通じた挨拶運動によりお互いのコミュニケーションを図ることを促した。 また、地域主催の販売活動、」環境整備などの行事に参加の要請があり積極的に交流活動ができた。
③基礎学力の定着、専門性をもった体験的・実践的学習、キャリア教育を進め、希望する進路実現を図る。	A	数学、英語における習熟度別の講座編成や１年次の「産業基礎」、２年次の就業体験や事業所見学等を通したキャリア教育の積み上げ。３年次においては、多くの生徒が希望進路の実現を果たすことができた
④ルールやマナーの遵守、他者を思いやる人権意識を涵養し、転退学者の減少につなげる。	B	生徒指導部を中心に呼びかけや啓発を行った。全校人権講演会を開催し意識の高揚に取組んだ。生徒相談や生徒指導と担任との連携を密にして、転退学者の減少に努めた。

領域	対象	評価項目	評価の観点	自己評価	成果と課題、改善策・向上策
教	教育課程	産業基礎	産業人としての基礎力を養成するための授業が実施できたか。	A	産業基礎は産業を学科の枠を超えて学び、産業人としての基礎力を養うとともに、地域産業の仕組みを理解し、今後の専門学習への意欲を形成するための授業を展開できた。さらに基礎力養成と専門学習へのﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝの向上を図る内容に改善や工夫をし総合技術高校の特色科目として、より効果的な教育内容を検討したい
		コース選択	コース選択に対する適切な指導ができたか。	B	・事前コース体験を２回、特徴をより深く理解させ、個別面談によりきめ細かなコース選択の指導を行うことができた。(農) ・工業技術基礎の学習内容からコースの特色を理解。生徒及び保護者への説明会を実施。きめ細かな指導を行うことができた。（工）

育		学科連携	他学科の生徒の学習に資するシラバスが作成できたか。	B	２年次の学科連携科目では、他学科の学習する科目として、農工商の生徒が自己の専門性を強化補強するためのシラバス作成に努めた。さらに専門性の深化につなげるため生徒が他学科の科目をより意欲的に取り組めるような科目設定や授業の工夫･改善の継続検討が必要である。３年次の進路別選択科目では、他学科の生徒が２年次から引き続き選択する科目を進路に応じたシラバスにすることができた。さらに内容の改善工夫が必要である。
活	学習指導	基礎学力の充実	学力補充が計画され、実施できたか。	A	各教科毎、基礎学力を含め、学力の補充が行われた。数学ではテスト前補習で力をつけさせるよう努めた。（農・工）生徒の学力が多様化しており、さらにきめ細やかな指導の必要性がある。
			家庭学習の時間をもつための取組みができたか。	B	各教科、科目など多方面から逐次働きがけが行われた。しかし、生徒各人の取組にはかなりの差が見られた。まだまだ、家庭学習の習慣づけにおいては課題が多い。
		授業方法の工夫・改善	言語活動の充実を図るための実践ができたか。	B	各授業の中での工夫や課題の精選などにより、生徒に働きかけが行われ、生徒自身で様々な場面で発表やプレゼンテーションを行った。さらに工夫や改善を進めたい。
動	生徒指導	日常的な生活指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に取り組めたか。	A	全教職員で行う毎日の立ち番指導、HR での声掛けを通じて、落ち着いた規則正しい高校生活を維持することができた。
			校則を守った身だしなみ指導ができたか。	B	教職員が同じ基準で同じように声掛けをして、さらに徹底させていく必要がある。係主導ではなく生徒会が中心となり生徒自身で創成高校のルールを守っていく規範意識を高めさせるなど校則の押しつけでなく、自らの高校生活をよくするためのルールとして考えさせることが望ましいのではないか。
		いじめの未然防止	いじめの未然防止に努めることができたか。	A	日常の声掛けやアンケートにより早い段階から担任･学年団によりいじめに対応することができた。今後はアンケートに加え全生徒対象の個人面談が実施できることが理想であり検討したい。授業･生徒会活動･部活動等通じ、生徒の自己有用感を高めいじめに向かわない生徒をさらに育てていくことが重要である。
		教育相談体制	校内の教育相談体制がうまく機能したか。	A	生徒相談室と保健室の連携が密になり効果が上がった。来年度はさらに生徒指導と生徒相談との連携を進める必要がある。
		家庭との連携	家庭との連絡を密にし、生徒指導に生かすことができたか。	A	軽微な事例でも担任から直ちに家庭連絡をしてもらえるように徹底できた。いじめ事例では被害･加害生徒の両保護者の考えを聞きながら慎重に対応することができた。
	進路指導	進路情報の提供	進路情報の提供が適切になされ、生徒の進路意識を高めることができたか。	B	進路通信やガイダンス、講演会を実施して自分の将来に対する意識付けを行うとともに、個人面談を通して個々の状況に応じた助言をすることができた。しかし､自分の将来設計についてどのようにすべきかわからない生徒も多いので、情報提供等さらなる工夫・改善が必要である。
		キャリア教育の充実	将来を見据えたキャリア教育とインターンシップを積極的に推し進められたか。	A	１年次の「産業基礎」における企業見学や講演会、２年次の就業体験や事業所見学会で､直に体験することを通して社会に貢献することの大切さを学ぶ機会を持つことができた。
	学校行事	学校行事の運営	創成フェア、課題研究発表会が各学科において意義ある行事となったか。	B	創成フェアは同じキャンパス開催となり３学科が協力強調しながら多くのお客様におもてなしの心をもって取り組めた。各科の授業内容や研究内容をお互いに見たり聞いたりすることができ有意義であった。さらに運営を工夫をしていく必要がある。
	生徒会活動	生徒会行事の活性化	完全統合した中で生徒会役員が広い視野を持って様々な活動を企画・運営し、個々の生徒が参加、活躍できるような場を提供できたか。	A	文化祭のクラス発表は、メセナホールで実施し充実した環境の中で各クラス協力して素晴らしい発表ができた。クラスマッチは春夏２日間の開催で各種目盛り上がることができた。委員会活動もそれぞれしっかり活動できた。

	クラブ活動	クラブ活動の活性化	運動系クラブの練習が円滑に行えたか。	A	日々の活動がさらに活性化し、県大会へ出場できるクラブが増え、大会実績等でその成果が現れている。
			文化系・専門系クラブ活動が充実、活性化したか。	A	信州総文祭などへの参加も含め、文化系クラブの生徒の活躍の場が増えた。専門的な分野を少人数で担い学び、日ごろの活動の成果を発表し上位の大会やコンクールなどに積極的にチャレンジすることができ成果が上がった。
学校運営	地域との連携	中学生に対するＰＲ	体験入学等の機会を通じて中学生を広く集め、本校に対する理解を深めることができたか。	A	体験入学および学校説明会については、多くの中学生の参加があった。また、公開授業時の進路説明会も中学生保護者に講評であった。さらに総合技術高校で学ぶことのメリット等を積極的に発信していきたい。
		地域への広報活動	公式 Web サイトや広報紙を利用して本校の活動を適切に情報発信できたか。	B	学校行事の様子などを、公式サイトで定期的に発信した。今後は公式サイトでの発信と滞ってしまった広報紙作成を併せて行えるようにしたい。
		生徒の校外活動の充実	地域との連携による生徒の自主活動ができたか。	B	各科や各クラブにおいて、企業実習や商品企画・開発等や地域行事参加を積極的に行い、地域と連携した教育を進めることができた。
	組織運営	総合技術高校の運営	３学科を備えた総合技術高校としての学校運営が適切になされたか。	B	総合技術高校としての理念を再確認して、３学科が連携し、互いの学びを大切に総合技術高校としての理念を具現化するための運営を行ってきたい。さらに、発展的かつ継続可能な新しい連携プロジェクト（３学科ないし２学科）を構築してより魅力的な須坂創成高校を目指したい。
	校内研修	高大接続改革などに関する事例研修	事例研修に基づく共通理解を持ち、実践につなげることができたか。	B	専門分野の講師を招いて「高大接続と大学入試改革」に関わる職員研修を行った。複数の大学担当から現状を具合的にお聞きし進路や学習指導への参考になった。